NPO法人 龍ケ崎ゲヴァントハウス　年末特別企画

講演とコンサート

第２回　蘇る往年の名演奏

今年最後のCDコンサートは、年末特別企画として、音楽・オーディオ界の第一人者、元フィリップス・レコード・オランダ本社副社長、新　忠篤氏をお招きし、「第2回　蘇る往年の名演奏」と題して、講演とコンサートを行います。

新氏は月刊「ラジオ技術」及び、季刊「管球王国」等に執筆され、オーディオ界では特にその名を知られた存在で、氏が編集された飛鳥新社出版のモーツァルト“伝説の録音”は大きな反響を呼びました。これまで氏自身が開発した「SPレコード再生用イコライザー」を通したDSDレコーディングによって素晴らしい音質で聴かせていただいてまいりましたが、今回はさらにDSD５.6MHzのネイティブ再生でSP録音の持ち味をフルに聴いていただきます。DSDネイティブ再生とは、DSDファイルフォーマットを内部でPCM変換せずに、DSD方式のまま再生する方法で、新氏が手掛けた膨大なSP録音を中心とした往年の名演奏がさらに高音質で蘇ります。当会自慢の最上級オーディオ装置でご堪能下さい。

＊＊＊＊＊＊＊

日　時：2019年12月14日（土）　午後2時～午後4時30分（休憩10分）

場　所：龍ケ崎ショッピングセンター「リブラ竜ケ崎」2階旧映画館

講　師：新　忠篤氏（オーディオ研究家、元フィリップスレコード・オランダ本社副社長）

テーマ：**第２回　蘇る往年の名演奏**

〈新　忠篤氏プロフィール〉

1939年、東京生まれ。元フィリップスレコード・オランダ本社副社長。フィリップス・クラシック社時代に小澤征爾、内田光子ら日本人アーティストの世界市場での販売、展開を手掛ける。コロムビア時代のDXMシリーズの復刻、飛鳥新社出版の、モーツァルト“伝説の録音”の編集・復刻を担当。2015年宮内庁が戦後70年にあたり、昭和天皇が国民に終戦を伝えた玉音放送の原盤の再生を氏に依頼、テレビでも紹介された。現在はフリーランスでSPレコードからの復刻CD企画、オーディオ用真空管アンプの設計、製作を続ける傍ら、「新忠篤オーディオ塾」を主幹、雑誌「管球王国」、「ラジオ技術」等に執筆。

プログラム

ベートーヴェン：交響曲第5番ハ短調作品67「運命」から第1楽章
　リヒャルト・シュトラウス指揮ベルリン国立歌劇場管弦楽団　（1928年録音 SP）

グリーグ：ヴァイオリン・ソナタ第3番ハ短調作品45から第1楽章
　フリッツ・クライスラー(vn)/セルゲイ・ラフマニノフ(p)　（1928年録音 SP）

J.S.バッハ：ブランデンブルク協奏曲第5番ニ長調 BWV1050から第1楽章
　マルセル・モイーズ(fl)/アドルフ・ブッシュ(vn)/ルドルフ・ゼルキン(p)
　アドルフ・ブッシュ指揮ブッシュ室内合奏団　（1935年録音 SP）

モーツァルト：クラリネット五重奏曲イ長調 K.581から第 1楽章
　ベニー・グッドマン（cl）/ブダペスト弦楽四重奏団　（1938年録音 SP）

フォーレ：ピアノ四重奏曲第2番ト短調作品45から第 1楽章
　マルグリット・ロン（p)/ジャック・ティボー(vn)/モーリス・ヴィユー(va)/ピエール・フルニエ(vc)（1940年録音 SP）

休憩10分

シューベルト：歌曲集「冬の旅」作品89より第 1曲「おやすみ」/第11曲「春の夢」
　ロッテ・レーマン(sop)/パウル・ウラノフスキー(p)　（1941年録音 SP）

ドヴォルザーク：交響曲第9番ホ短調作品95「新世界より」から第1楽章
　ウィレム・メンゲルベルグ指揮アムステルダム・コンセルトヘボウ管弦楽団（1941年録音 SP）

ラロ：スペイン交響曲作品21から第1楽章
　アルフレート・カンポーリ(vn)
　エドゥアルト・ファン・ベイヌム指揮ロンドン・フィルハーモニー管弦楽団（1953年録音 LP）

サン＝サーンス：ピアノ協奏曲第2番ト短調作品22から第1楽章
　ジャンヌ＝マリ・ダレ(p)/ルイ・フレスティエ指揮フランス国立放送管弦楽団（1956年録音 LP）

★ホームページアドレス　http://gewandhaus.sakura.ne.jp/wp/